

サンディエゴ日本人教会トピックス【2018年11月】

読書の秋となりました。最近、読書の大切さを色々な方面から知らされ、高齢化が進むにつれてますます言われているようです。私達クリスチャンはいつも聖書のみ言葉に接し、聖書を読む習慣がついていて、日々のデボーションの大切さを思わされています。読むことと、心に神様のことを思うことは、なんと幸いなことでしょう。心に安堵感がわいてきます！

味覚の秋ですね。店々には、日本のフルーツ柿や栗、松茸などの美味しいものが沢山並び、こちらサンディエゴでも日本と変わらない品々を買えますので感謝なことです。

温かい当地でも朝夕は少し冷え込み、ジャケットが必要です。心地よいサンディエゴに住める幸いを感謝しています。

世界中に広がる被害、災害に遭われておられる方々を思い、ただただ早い復興を祈るばかりです。その後、皆さんいかがお過ごしでしょうか。神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. ラメージ・セール・ファンドレイズ：Japan Mission

2. サンクスギビング・イブ・サービス

3. 婦人会での証：

コラネリ美佐子姉、クロセッティ美也子姉、ラッドとし子姉

4. 礼拝メッセージのライブ映像

1. ラメージ・セール・ファンドレイズ：Japan Mission

サンディエゴ教会では11月3日(土)にラメージ・セールを行いを行いました。当教会の英語部に所属され、来年日本への宣教師として行く予定のスー・ファミリーのファンドレイズでした。当日はボランティアが与えられ、多くの品々のセールにより豊かに献金が与えられ、感謝な一日でした。当教会からの宣教師として送り出せることを主に感謝いたします。皆さんの尊いご協力をありがとうございます。ハレルヤ！

2. サンクスギビング・イブ・サービス

ハッピー・サンクスギビング・デー！

11月はアメリカでは、感謝祭を迎える月で、教会では21日夜7時よりサンクスギビング・イブ・サービスが持たれ、一年の感謝を神に捧げる一時が与えられました。

あたりは真っ暗で闇のようでしたが、ライドの安全を守られて多くの方々が集まられました。奏楽に引き入れられるように人々が礼拝堂に入って行って、感謝を捧げる静まったときとなりました。「望みも消えゆくまでに」から始まり、感謝祭に相応しい多くの賛美が、声高らかに会堂いっぱいになりました。

大倉先生は日本語で、一米先生は英語でメッセージを取次いでくださり、恵まれた一時でした。

詩篇 107 編 1 節「主に感謝せよ。主は恵みふかく、そのいつくしみは、とこしへに絶えることがない」

今夜は、牧師のメッセージを通し、多くの事を学びました。特に印象に残ったことは「神様は一つの恵みから、次の恵みへと与えられておられる。神がすでに与え続けてくださっている恵み、それは失って始めて気がつくことがある。その時、私達は今まで与えられていた恵み、それは当たり前のことではなく、神の御恩寵であったことを知らされました。生かされていることは当たり前のことではなく、

神のお恵みであるとは、何と素晴らしいことでしょう」 感謝祭に相応しいメッセージに一同心が燃やされました。

メッセージの後、スモールグループに分かれ、各自が今年一年、与えられた感謝を分かち合い、祈り合い感謝に溢れた夕べとなりました。

皆さんが祈り終わった頃、八尋ホールでは、婦人会が用意されたリフレッシュメント、感謝祭にはつきもののパンキンパイをはじめ、ピーカンパイ、アップルパイなどをいただきました。楽しい良き交わりのひと時、感謝祭イブにふさわしい集会となりました。

3. 婦人会での証：

11月18日(日)の婦人会では次のようなお証をして頂きました。

コラネリ美佐子姉：感謝祭に思う

8月11日から13日にかけて、ペルセウス座流星群が現れると知り、星を眺めるのが好きな私は、新月になる日の夜、10時半頃に外に出て、マルチーズのジョイが吠えないように彼を膝の上に置き、外灯の光を手で遮りながら、北東の夜空を仰いで椅子に掛けていました。15分ほどたったのでしょうか、突然、当然ながら音もなく、私の鼻のあたりから額にかけて明るい光が流れました。あっという間もない流れ星を期待通りに見ました。その瞬間私は思わず、あつた！と叫んでいました。心の中でありがとうございますと言いながら、なんとも言えない嬉しさに満たされて家の中へ入りました。

アメリカで見ておきたいところの一つに、グランドキャニオンがあります。過去に4回行く機会がありました。その地形や、資料館の海の生物の化石などを見ながら、私は、ノアの洪水、ハレルヤ！と嬉しくなります。その都度、忘れられない思い出がありますが、中でも、クリスチャンの妹と行ったときのことが忘れられません。それは、真っ暗なキャニオンで、満天の星が見えたことです。子供の頃から聞いたり読んだりした天の川も、ここでの素晴らしさは特別で、初めて

見たようです。それは生まれ育った名古屋でも、ここサンディエゴでも見られませんでした。

私たちは、星を散りばめた夜空の天幕の下で仰向けに寝転んで、ダビデやベツレヘムの羊飼いたちが野宿をしながら眺めたであろう星をみながら、神様の創造を語り合い、主を崇めました。

近年は、大宇宙の様々な銀河やガスの様子は、息を呑むような鮮やかな映像で見られますね。ロスアンゼルス近郊にあるマウント・ウイilson天文台で、コペルニクスやガリレオにも並ぶ働きをされた天文学者、エドウィン・ハッブル博士にちなんで名付けられたハッブル天体望遠鏡が、大気の汚染などない地上600kmの所から写して送る映像です。

打ち上げから28年になりますが、研究者たちは、100年も1000年も先の軌道を計算してから、人工衛星を打ち上げるそうです。ちなみに、初の人工衛星が打ち上げられる前に、どうしてもその軌道の計算が合わなかったそうです。そして、あるクリスチャンの研究者が、旧約聖書の中で、神様が日時計を24時間止められたこと（ヨシュア記と第二列王記）に思いあたり、それを計算に入れると問題が解決したと言われます。まことに、主は生きておられます！

聖日礼拝は、私にはとても大切なひと時です。9月に、大倉先生の礼拝メッセージの中で、フィリップ・ヤンシーの名前を二度聞きました。その時、私は教会に入会した当時で、10年以上も前のことですが、通訳させていただいたメッセージを思い出しました。メッセージの原稿は、礼拝後に、いつものように初音姉妹に渡されました。フィリップ・ヤンシーは、クリスチャン・ジャーナリストで、数々の著書がありますが、それは、「The Jesus I never knew」の中で、ヤンシーが引用した、J. B. フィリップが書いた文章で、次のような内容でした。

「年上の天使が若い天使に、渦巻く銀河や、燃え盛る太陽のような星を巡りながら、宇宙の素晴らしさを見せました。やがて果てしない距離の彼方にある5千億の星からなる銀河系に来て、私たちが太陽と呼ぶ星に近づきました。そして、年上の天使は、その近くでゆっくり自転している、どちらかと言えば、取るに足りないように見える球体を指差しました。素晴らしい銀河や大きな星を見てきたばかりの若い天使には、地球は汚れたテニスボールのようにくすんで見えました。彼は、年上の天使に尋ねました。『僕には小さくて汚く見えるけど、その何が特

別なの。』そして彼は、小さくて、さして重要にも清くも見えないこの惑星が、かの名高い、訪問された惑星だと聞かされ、信じられない面持ちで立ち尽くしました。彼は、顔をしかめ、苛立ちをおぼえながら言いました。『私たちの偉大なる栄光ある王子様ご自身が、この5級とも言えるボールに降りて行かれたとおっしゃるのですか。一体、なぜそのようなことをなさったのですか。王子様は、そんなにまで低くなられて、ご自身が、あの浮いているボールの上を這っている生き物になられたとおっしゃるのですか。』（高いところから見ると、人は蟻のように見えますね。）『そうですよ。だけど、そのような言い方を主は喜ばれないと思いますよ。私たちには不可解でも、主は彼らを愛しておられるのです。主は彼らが主のようになるために、彼らを引き上げに降りて行かれたのですよ。』若い天使にとって、このような思いは全く理解できないことでした。」

太陽系の惑星の一つ、私たちが住むこの地球は、ますます広がっていく宇宙の中で、唯一私たちが生存できる環境です。また、銀河系の中でも、神様の美しい星の世界を見られる絶好の場所に位置しています。神様のデザインによる素晴らしい創造です。そして、聖書の詩篇139篇でもわかりますが神様は、私たちに、60兆ものDNAをもって母の胎の中で組み立ててくださっています。60兆は、6に0が13個もつきます。私には想像もつきませんが、まさに宇宙規模で且つ精密な組み立てが、この私なのですね！

今週、アメリカでは感謝祭を祝います。

一般的には、1620年、信教の自由を求める清教徒たちが、イギリスからメイフラワー号でマサチューセッツ州プリマスに移住し、厳しい冬に原住民に助けられ、のちに、収穫をもって、彼らをもてなし感謝したことを記念し、1789年以降に、収穫を感謝する感謝祭となりました。ところで、大切なことが忘れられています。それは、清教徒たちは、まずはじめに神様に感謝を捧げたことです。

1968年、クリスマス・イブに、アポロ8の宇宙飛行士は、月の近くから創世記1章を読み上げ、クリスマスの挨拶を地上の人々におくりました。

1969年、月の上を歩いた人類初の宇宙飛行士、ニール・アームストロングと共にいた宇宙飛行士、エドウィン・オードリンは、月に到着直後、機内で神様に感謝の聖餐式を捧げました。

私は、誰に何を感謝して祝いましょうか。それは、神の子、イエス様が天から降られて、人間となられ、十字架で私達の罪を贖ってくださったゆえに、この罪人の私が神様との和解を得て、御元に行けるようにくださったことです。「主のよくしてくださったことを何一つ忘れるな。」と、詩篇103篇にあります。とかく糸の切れた凧・風船のような私は、聖霊様のお助けと、イエス様の愛に倣って、神様を第一に生きることにより自分を愛してゆきたいと思います。感謝祭にあたり、心より、尽きない感謝を主に捧げます。ハレルヤ！

クロセッティ美也子姉：比嘉豊子姉を偲んで

比嘉さんとは、サンディエゴ教会で出会いました。知り合ってから12年、教会を通してお交わりをさせて頂きました。それは彼女の85年の生涯の中ではほんの一部ですし、彼女の若い頃や救われる前のことは全く知りません。

彼女は沖縄の那覇の出身で、その那覇の中でも気位の高い人が多く住む土地の出身なのですが、彼女からはそんなツンツンしたところは知り合った頃の比嘉さんからは微塵も感じませんでした。

ただ子供の頃の話、戦争中の対馬丸の数少ない生き残りだという話を本人から聞いたことは強烈に覚えています。対馬丸の記念博物館が沖縄の那覇市にあります。その建物は対馬丸を模して作られています。その屋上が対馬丸の甲板と同じ高さで、そこから子供達が投げ出されたかと思うと、屋上に上がった時、私は心が張り裂けそうな恐怖を覚えました。

その恐怖を体験し、奇跡的に助かった体験のせい、比嘉さんからはいつも「守られた、生かされている、感謝だ」というような言葉が溢れている印象がありました。

比嘉さんと知り合って間もない頃、私は運転免許がなかったのですが、彼女が私に「教会と病院にはいつでも行けるように早く免許をとりなさい」と自分のことのように心配しておしゃってくれました。その言葉から溢れる比嘉さんの愛情深さに心が温かくなったのを昨日のことのように覚えています。

以前に私が通訳の御用をさせていただいた時の話ですが、初めて通訳をするという朝、緊張でお腹が痛くなってしまいました。その時に、比嘉さんが優しく「祈っていたよ」と声をかけて下さり、痛み止めまで持ってきてくださいました。霊のお母さんに守られていると感じ、ジーンとしました。又その時に、比嘉さんは週報を見て、いつも牧師先生をはじめ、奉仕する一人一人の方のこと、教会のことを祈っていらっしゃるんだとわかりました。

同じ同郷の沖縄出身ということで余計身近に感じてくださったのか、なにかと気にかけていつも声をかけて下さり、優しくしてくださいました。

一度息子のドミニックと比嘉さんの家を訪ねたことがあります。比嘉さんは、朝から天ぷらやら特上の寿司やらご馳走を用意してくれて、私達のようなとるに足りない親子に極上のおもてなしをして下さり、とても感激したのを昨日のようです。また帰る時も、免許取立ての私に「心配だから戻ったらちゃんと連絡するのよ」とおっしゃり、帰宅した時に電話を入れたら、「守られて良かった、神様、感謝します。」と電話の向こう側でおっしゃるのを聞いて、私たちが帰途につく間守られるように祈ってくださっていたんだと感じました。

お互いにしばらく見ないと「ハワイの娘のところに行ってたのよ～」とか「沖縄に帰ってたの？」なんて他愛ない会話を交わしながらお互いの家族のことを話していました。お互いの家族がまだ救われていないという痛みを共有していたことも神様は用いて、お互いの家族のことを思い祈るということで、私たちは二人をより近づけてくださったような気がします。

比嘉さんは言葉数が多いわけでもなく、どちらかという控えめで、教会では目立たない存在だったかもしれませんが、いつも感謝の心で祈っている姿から多くのことを教えられました。神様はその祈っている比嘉さんの背中を通して、私に沢山の御霊の実を見せてくださいました。

人に知られなくても、沢山の祈りを捧げた比嘉さん、近くに何時も主がともにいてくださったので、彼女のそばにいただけで主の愛が伝わってきて心が癒され、慰められたのだと思います。いつも隠れたところに居られる神様に、沢山の祈りを捧げた比嘉さんは、神様とたくさんの秘密を持っていたことと思います。そして今、天国で沢山のご褒美に、控えめの比嘉さんは（嬉しく）びっくりされたのではないかと想像します。「よくやった、豊子よ、良い僕だ。あなたは小さな

ことに誠実だったから大きなものを任せよう。」神様はそうお仰られたと思います。

比嘉さんのことを思い出すたびに御言葉が溢れます。そんな御言葉を生きた比嘉さんの人生は、本人は語らずとも、神様に御言葉を通して語っていただいた、やっぱり気位の高い、本当に粹な素敵な女性だったと思います。

「比嘉さん、大好きだよ。いつもありがとう。ありがとう。9月にかおりさんと訪ねて行った時も、ずっと「ありがとう。ありがとう。」と言ってたね。私たちは日本語で「愛しているよ」と言うのが恥ずかしいから、ハグした時、「I love you」って言ったら比嘉さんも「I love you」って言ってくださったの、とっても嬉しかったよ。日曜日に会いに行った時、「明日ドミニックを連れてくるね」って言ったら本当にドミニックのことも待っていてくれてありがとう。天国に連れて行かれる前にドミニックも比嘉さんと（しばらくの間だけ）お別れができて良かった。ありがとう。とっても寂しいけれど、また再会するまで天国で見守っていてね。」

霊のお母さんの豊子さんへ。

霊の娘の美也子と霊の孫ドミニックより

ラッドとし子姉：比嘉豊子姉の思い出

比嘉豊子さんは、熱心なクリスチャンで、すべての教会集会を守られた方で、イエス様を深く愛しておられました。以前、お元気だった頃は、聖餐式の準備をされるなど、教会奉仕に参加されていました。

息子さんのお家の近くで、私と同じ、チュラビスタに住む様になってから、豊子さんとは、特に親しくお付き合いするようになりました。

そして、やがて、彼女が車の運転を、なさらなくなってからは、私が木曜集会のライドをするようになりました。また、豊子さんは私が所属している家庭集会である「恵会」へ出席されるようになり、恵会のメンバーとなりました。

近くに住んでおられる息子さんは釣りが大好きで、大量に釣れた時は、教会へ持ってきてくださり、教会の大きな冷凍庫にいっぱいになります。礼拝が終わると「皆さんどうぞお魚をお持ちかえりください」とのアナウンスに、みなさん大変喜びで、感謝していただいたことです。

豊子さんは、車の中で、楽しい色々なお話を聞かせてくださいました。豊子さんは、とても家族思いで、先に、天に召されたご主人様のことや、4人のお子さん方のこと、お孫さん達の成長振りを良く話さして聞かせて下さいました。

皆さん仲の良いご家族だなあと色々なお話を通して伺われました。お子さん方はとても親孝行で、いつも豊子さんの必要なライドをなさり、教会の早天祈祷会を始め、礼拝、聖書研究などに心置きなく来ておられました。そして医者通いや、日本食を買う店へなどと、必要に応じてお助けし、豊子さんへの思いやりのある方々です。

あと二月位で、ハワイの娘さんのところへ引っ越されるというので、豊子さんは、その時を楽しみに待って居られたのですが、それが果たされず、さぞ残念に思われたこととお察ししています。

教会を休まれた時など、家へお見舞いに行くと、帰りがけに私が祈ると、豊子さんも祈られ、暖かい良い交わりの時を持ちました。

地上でのお別れは寂しいですが、今はイエス様のみ手の中で、痛みも苦しみも無く、安らいでおられます。私達クリスチャンは、また逢うという希望の喜びがあり、しばらくのお別れです。ご家族の上に神様の豊かなお慰めがありますよう、お祈りいたします。

「また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」 黙示録 21:3, 4

4. 礼拝メッセージのライブ映像



サンディエゴ教会では、毎週の礼拝メッセージをインターネットのポッドキャストで聞いたり、ライブ映像で見たり、メッセージの全文を読んだり、色々な方法で礼拝に参加することができます。

アメリカにお住まいで日本語メッセージを聞けない地域の方々、日本や、他の国々にお住まいの方々、そして旅行や健康上の理由で当日教会へ行けない時などは、とても便利です。スマホやコンピューターのインターネットから、何時でも、何処にいても、自由に教会ウェブサイトの日本語ページからご覧いただけますので、どうぞお試しくださいませ。

●ライブ映像米国太平洋時間 (Pacific Time) 9am

<https://boxcast.tv/channel/qcoczgsn02ddnmssdj9>

●教会ウェブサイト【日本語ページ】 <https://www.sdjcc.net>

●ポッドキャストで聞く <http://sdjccjp.podbean.com>

●全文を読む「世俗牧師宣言」 <https://www.sanbi.us/pmac/>

ラッドとし子